第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共交通（４）	
日付：１１月　3日（月）曜日、セッション時間：１５：００～１７：００	
司会者名（所属）：藤原章正（広島大学）	
討議内容	セッション全体： 都心の商店街活性化､地方の高齢過疎化にかかる各種問題を公共交通および自転車の視点から広く議論した。４論文に共通する問題として、施策の多様な利害関係者および実施主体の設定が重要な鍵となる点が改めてクローズアップされた。
	（発表番号）　発表者名　（所属）：２８０　谷内久美子（大阪大学） 住民によるバス自主運行問題を構造化するため､自主運行を実現した地域と実現しない地域を対象として貴重なデータを入手し､ソーシャルキャピタル概念に基づき､住民の参加意識を分析した。共助を前提とする中で真のステークホルダーは誰か､個人意識に加えて集団意識分析の必要性､住民参加意識と自主運行実現の間の関係などについて議論がなされた。
	（発表番号）　発表者名　（所属）：２８１　高橋昌英（早稲田大学） 富山市を事例として､地方鉄道活性化策の評価のためにCVMによる非市場価値の計測を試みた。また、AHP 手法により総価値を各種価値に配分するためのウェイトの算出方法を提案した。WTPデータに関して、支払方法、拒否回答・抵抗回答の取り扱い、利用目的別非利用価値の意味、AHPにおるウェイト算出方法などについて質問が出された。
	（発表番号）　発表者名　（所属）：２８２　土屋愛自（さいたま市） さいたま市内の駅前広場の事後評価を試みると共に、エキスパートを対象とした AHP による駅前広場の適正規模の決定方法について提案した｡主として利用者数に基づきスペースを議論することの限界、２８年方式の推計値が過大であった駅と過小であった駅の取り扱い方､駅前広場の機能別に階層化した一対比較法の導入可能性などについて議論がなされた。
	（発表番号）　発表者名　（所属）：２８３　寺内義典（国士館大学） 商店街における路上駐輪場を対象として２回の社会実験を実施し､心理的方略が利用者および商店主の参加意識の変化に及ぼす影響を計測した｡対象地区の環境条件、まちづくり協議会が主体となることで駐輪問題以外の課題への拡張可能性､意識変化をもたらした要因などについて議論がなされた。